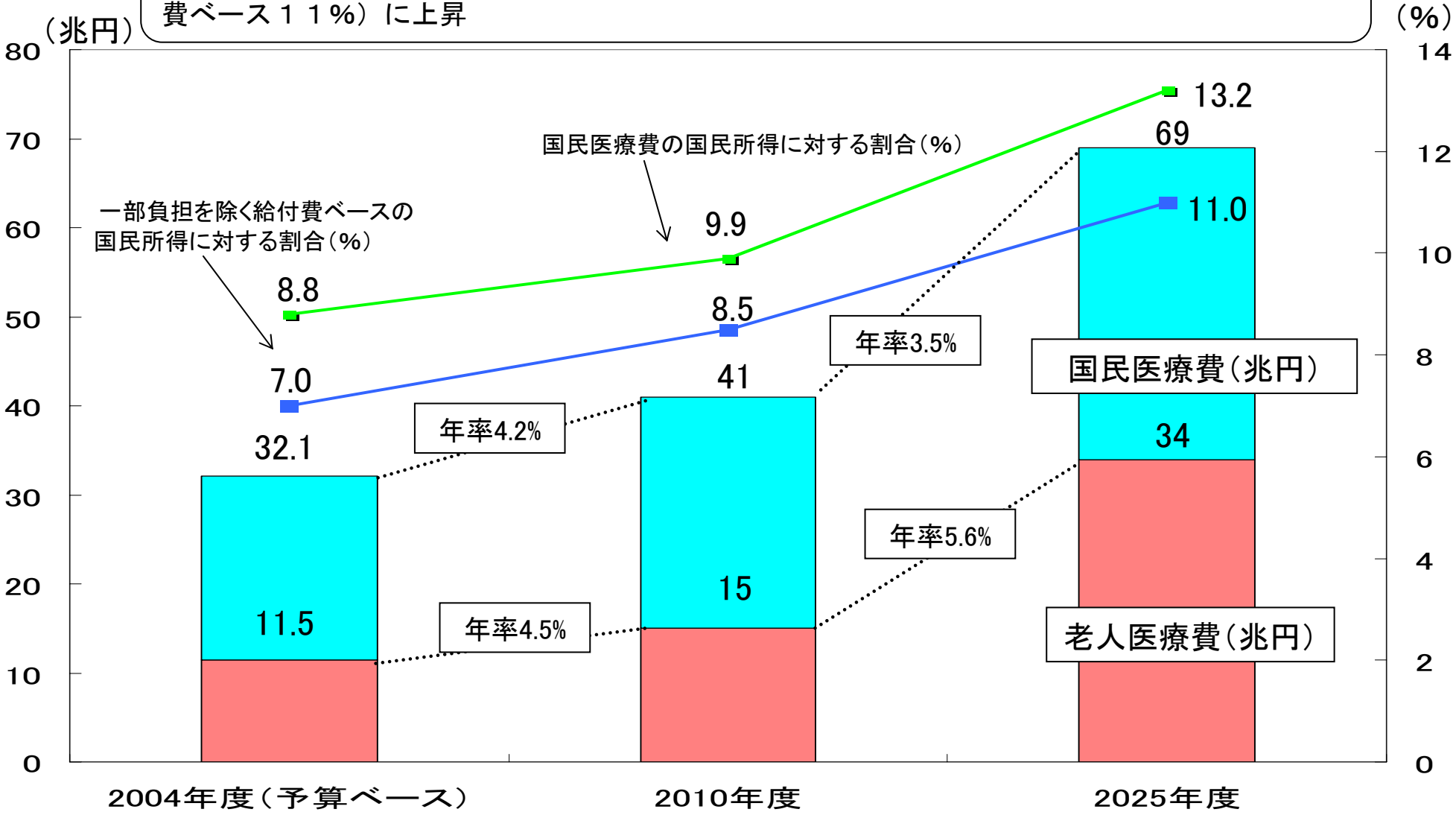


国民医療費の見通し

○医療費は経済成長を上回る3～4%程度の伸びであり、このまま推移すれば、国民医療費の対国民所得比は現在の8.8%（給付費ベース7%）から2025年には13.2%（給付費ベース11%）に上昇



注1: 老人医療は2007年まで対象年齢の引き上げが行われていることに注意が必要
注2: 2010年度及び2025年度は「社会保障の給付と負担の見通し」(平成16年5月)ベースの推計値

「社会保障の給付と負担の見通し」における推計の方法

- 平成16年度予算の年齢階級別1人当たり医療費に過去の実績(平成7～11年度)から求めた1人当たり医療費の伸びを乗じて将来の年齢階級別1人当たり医療費を算出。
- 将来推計人口から将来の医療保険年齢階級別加入者数を推計。
- 各年齢階級別の1人当たり医療費と加入者数を乗じ、全年齢階級の医療費を合計することにより将来の医療費を推計。

(医療費の将来推計の前提)

- 年齢階級別1人当たり医療費
平成16年度予算の基礎係数より推計
 - 医療費の伸び
 - ・ 平成7～11年度の1人当たり医療費の伸びの平均。
ただし、加入者の年齢構成の変化による増減分(「人口の高齢化」分)と制度改正による一時的な伸びの減少分を除いたもの。
- | | |
|---------------|------|
| 一般医療費(70歳未満) | 2.1% |
| 高齢者医療費(70歳以上) | 3.2% |
- 将来の人口
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(平成14年1月推計)」の中位推計

「社会保障の給付と負担の見通し」における将来推計の前提 ～1人当たり医療費の伸びの設定方法とその要因～

- 将来推計における1人当たり医療費の伸びは、平成7～11年度の1人当たり医療費の伸びの平均を用いており、加入者の年齢構成の変化による増減分（「人口の高齢化」分）と制度改革による一時的な伸びの減少分を除いたもの。
- したがって、その伸び率には、当該期間における「医学・薬学の進歩による高度な医療の開発と普及による伸び」が含まれている。

	2004年度～2010年度	2010年度～2015年度	2015年度～2025年度
医療給付費の伸び	4.2%	4.0%	3.6%
人口の伸び	0.0%	▲ 0.2%	▲ 0.4%
人口の高齢化	1.7%	1.6%	1.4%
1人当たり医療費	2.6%	2.6%	2.6%
うち一般	2.1%	2.1%	2.1%
うち高齢者	3.2%	3.2%	3.2%

（注）「人口の伸び」は、「日本の将来推計人口」（平成14年1月）の中位推計による。
「人口の高齢化」は、年齢別にみて1人当たり医療費の高い中高齢者の割合が将来増加することによる「医療給付費の伸び」への影響を示したもの。